



令和6年度 標語コンクール
『わたしの家族』入賞作品



当協議会では、児童・生徒のみなさんに日頃の生活を振り返り、テーマに沿ったものを考えることでの豊かな表現力と語彙力を養うことを目的とした、標語コンクールを実施しております。本年度は、118点の応募を頂き、厳選された入賞作品をご紹介します。是非、ご家族での団欒のひとつきに、話題として頂ければと思います。



【愛別町長賞】『つらいとき かなしいときも すぐそばに』 愛中3年 久保田 優希さん

【教育長賞】『たくさんの ケンカと笑顔で 大合唱』 愛中1年 谷本 月実さん

【愛別町青少年育成協議会委員賞】

小学生	低・中学年	最優秀	『ありがとう だいすきかぞく たからもの』	2年 善方 莓花さん
		優 秀	『おじいちゃん おいしい野菜 ありがとう』	4年 谷本 陽周さん
		優 秀	『ありがとう わたしの家族 これからも』	4年 佐々木 梓さん
	高学年	最優秀	『ハグすれば 元気充電 LOVE充電』	5年 今 来音さん
		優 秀	『「ただいま」と 言える家族が たからもの』	5年 菘嶋 汰介さん
		優 秀	『あいさつは 家族の大事な エネルギー』	6年 作田 健成さん
中学生	最優秀	『兄巢立つ 寂しいけれど 「いってらっしゃい」』	3年 伊勢 木音さん	
	優 秀	『辛いとき いつでも側に 家族いる』	3年 谷本 大翔さん	
	優 秀	『おはようから はじまる1日 家族の和』	3年 渡邊 美咲さん	
	優 秀	『いってらっしゃいのひとことで 私はパワーをもらってる』	1年 佐橋 桃花さん	
高校生	最優秀	『お母さん 小さな変化 すぐ気づく』	1年 藤井 匠さん	
	優 秀	『ケンカして 時間がたつと 仲直り』	1年 佐藤 麗佳さん	

青少協だより

第185号

令和7年1月1日発行
愛別町青少年育成協議会



10月25日、旭笑長屋ナカマド紅丸さん、狐狸亭道楽さん他2名を演者に、幼児センターに通う親子対象の子育て研修会が開催されました。

幼児とその保護者など39名が参加し、日本の伝統芸能「落語」の魅力を教えてもらいました。

当日は、ステージ上に演者がしゃべる「高座」があり、そこに座布団やめくりもあり、日頃見たことがないものに、興味をもっている様子でした。



テンポの良い会話に耳を傾け、身振り手振りからも想像を膨らませ、子ども達は笑いでいっぱいでした。

また、小道具として使われている扇子を実際に用いて、そばを食べる真似なども行いました。初めての経験に楽しい時間を過ごすことができました。

(職員記)

子育て研修会

愛別町幼児センター寄席

「リアルな生活の充実」

（育成環境部会）石坂 剛
〔愛別町立愛別小学校長〕

小・中学校に一人一台端末が導入されて四年となり、今や授業になくはならないものになりました。学校以外にも、スマホやゲームを通して子供たちは広い世界とつながることが可能です。



一方で、昼夜逆転など子供のスマホ・ゲーム依存が問題になっています。ここで言う「依存」は「やり過ぎ」とは違います。「依存」は悪影響があつて本人がやめたくてもやめられない心の病気です。スマホやゲームを取り上げれば良いという意見もありますが、根本的な問題解決にはならず、多くの場合逆効果です。依存症は適切に治療することが必要なのです。



依存症については、「ネズミの樂園」という興味深い実験があります。

狭い檻に一匹ずつ閉じ込めたネズミと広くて遊び場があり自由に行動できる複数飼育のネズミにそれぞれ普通の水と依存性薬物の入った水両方を与えると前者のネズミはすぐに依存症に陥りましたが、後者のネズミは依存性薬物の水を飲もうとしなかったということです。また、依存症になったネズミを後者の「樂園」に入れると離脱症状を示しながらも他のネズミと遊んで依存性薬物の水を飲まなくなったということです。

つまり依存症からの回復や予防には、他者とのつながりやストレス解消の方法があるかどうかが大変重要ということになります。このネズミの実験が人間についても妥当かは議論がありますが、同じようにゲームをしたりスマホを使ったりしても依存症になったりならなかったりすることと関連があるのではないかと考えられています。

以前、学校だよりも書きましたが、ネット依存治療の専門家によると、依存には促進要因と抑制要因があり、依存症の予防や治療には抑制要因（リアルな生活での達成感・充実感、ストレスへの対処スキル、将来の目標など）を強めることが大切なのだそうです。このリアルな生活での達成感・充実感を高めるのに大切なのが、学校教育と地域教育だと思っています。

愛別町の青少年育成協議会は、「地域の子供たちは、地域で守り育てる」という視点で様々な見守り活動、教育活動に取り組んでいます。こうした活動により子供たちは体験活動の楽しさや人とのつながりを学びます。今後も、家庭・学校・地域が協力して、愛別の子供たちの「リアルな生活」を充実させていくことを願っています。



予告

令和7年

3月18日

（火）

【青少年育成研修の集い 兼 地域学校協働活動ボランティア研修のご案内】



講演 『コロナ後の子どもの変化と体験活動の重要性』
講師 北海道文教大学人間科学部地域未来学科 教授 中田 和彦氏

当協議会では、子育てに関わる教育関係団体が相互に連携を強化し、また、地域の方々のご協力を頂きながら一体的に子育てに取り組む機運高揚を目的として研修会を実施しており、本年度は上記内容を予定しております。家庭・学校・地域社会が一体となって愛別町の青少年育成活動がより良きものとなるよう、一人でも多くの方々にご参加を頂ければと思います。時間等の詳細は、後日発行の青少協だよりをご覧ください。

